

目 次

第2版はしがき

1 章 序 論 I

- 1 民法とは 1
- 2 民法の歴史 2
- 3 民法の構造 3
- 4 私権の分類 5
- 5 民法の基本原則とその修正 6
- 6 民法の読み方 8

2 章 総 則 (1) 自然人・法人 10

- 1 民法総則の基本構造 10
- 2 自然人の権利能力 11
- 3 自然人の意思能力 12
- 4 自然人の行為能力 13
- 5 法 人 17

3 章 総 則 (2) 法律行為・代理・時効 21

- 1 法律行為 21
- 2 代 理 38
- 3 時 効 44

4 章 物 権 (1) 物権の意義と種類・所有権の内容 50

- 1 物権と債権の違い 50
- 2 物権の種類 54

- 3 物の意義 56
- 4 物権的請求権 57
- 5 所有権の内容 58

5章 物 権 (2) 物権変動…………… 61

- 1 物権変動という用語の意味 61
- 2 物権変動が生じる場合 62
- 3 法律行為による物権変動 63
- 4 物権変動の公示 64
- 5 公示されていない物権変動の取扱い 68
—公示の原則と物権変動の對抗要件
- 6 公示が間違っていたらどうなるか—動産の即時取得 72

6章 物 権 (3) 担保物権…………… 75

- 1 担保という用語の意味 75
- 2 抵 当 権 75
- 3 質 権 78
- 4 留 置 権 78
- 5 先取特権 79
- 6 担保物権の分類 79

7章 債権総論 (1) 債権の目的・債権の効力…………… 80

- 1 債権と債権法 80
- 2 債権の目的—様々な種類の債権 82
- 3 債権の効力—履行の強制と債務不履行による損害賠償 86

8章 債権総論 (2)…………… 96

責任財産の保全・多数当事者の債権債務関係

- 1 責任財産の保全—債権者代位権と詐害行為取消権 96
- 2 多数当事者の債権債務関係—連帯債務と保証債務 102

9章 債権総論（3）…………… 109

債権譲渡・債務の引受けと契約上の地位の移転・債権の消滅

- 1 債権譲渡 109
- 2 債務の引受けと契約上の地位の移転 112
- 3 債権の消滅——弁済と相殺 113

10章 債権各論（1）契約総論…………… 118

- 1 債権各論の意義と契約総論・契約各論 118
- 2 契約トラブルと民法による解決 119
- 3 契約法の基本原則 122
- 4 契約の分類 124
- 5 契約の成立 125
- 6 契約内容の解釈・判断 127
- 7 契約の効力 128
- 8 契約の解除 131

11章 債権各論（2）契約各論…………… 132

- 1 典型契約の意義 132
- 2 贈与 135
- 3 売買 136
- 4 賃貸借 138
- 5 消費貸借 140
- 6 請負 142
- 7 その他 144

12章 債権各論（3）不法行為その他…………… 146

- 1 私たちの生活と不法行為 146
- 2 不法行為の意義 146
- 3 一般不法行為の要件 151

- 4 一般不法行為の効果 154
- 5 特別な不法行為 157
- 6 事務管理 160
- 7 不当利得 161

13章 親 族 162

- 1 はじめに 162
- 2 婚姻——夫婦関係の成立とその効果 163
- 3 婚姻の終了——離婚の要件と効果 167
- 4 親子（1）——実親子関係 170
- 5 親子（2）——養親子関係 173
- 6 親権・後見（保佐・補助）および扶養 175

14章 相 続 177

- 1 はじめに 177
- 2 法定相続 178
- 3 複数の相続人と遺産分割 179
- 4 相続人の不存在 181
- 5 遺 言 181
- 6 配偶者居住権 183
- 7 遺留分制度 184
- 8 特別の寄与 184
- 9 所有者不明土地の発生の抑制 185

索 引

* 本書において引用する法令の条文のうち、法令名の記載がないものは、断りのない限り、民法の条文です。